

オンデマンドで効率向上

森松水産冷凍(株) 愛媛県今治市天保山町 5-2-20

森松水産冷凍はハマチ、タイ、カンパチなどのフィーレ加工、一般魚介類の加工などを手掛ける会社だ。衛生管理に非常に力を入れており、(社)大日本水産会による「水産食品加工施設HACCP」の認定を受けているほか、EUHACCP、BRC※なども取得している。

同社がカラーラベルプリンターを導入したのは08年11月。パッケージラベルや表示ラベルのオンデマンド印刷が可能になったことで「商品開発スピードがアップした」「表示項目の変更が容易になった」などさまざまな導入効果が表れたという。そこで、IT通販課課長の西田勝氏に導入効果などの話を聞いた。

※BRC：BRC (British Retail Consortium：英国小売協会) が開発した規格。HACCPの採用と履行、トレーサビリティ要件を含む品質マネジメントシステム導入などの項目を網羅している。英国で大手SMなどに食品を販売する際にこのBRC認定書は必要不可欠(チュフラインランドジャパンHP参照)



IT 通販課課長

西田 勝氏

Masaru Nishida

●プロフィール

1972年7月生まれ。
07年8月森松水産冷凍(株)入社。



【会社概要】

創業 ● 1967年

売上高 ● 40億円

従業員数 ● 90人

事業内容 ● フィーレ加工 (ハマチ、タイ、カンパチなど)・一般魚介類加工・冷凍品加工、卸



写真1 ダミーパッケージラベルを張ったサンプル(左)とカラーラベルプリンターで作成したパッケージラベルを張ったサンプル(右)。一目見て違いは歴然だ

オンデマンド印刷が商品開発スピードアップに貢献

—— カラーラベルプリンター導入で、これまでにどのような効果が表れましたか。

西田 まず、新商品開発のスピードアップが挙げられます。これまでではまず先に商品を開発して、パッケージのデザインは商品化が決定した後に印刷業者へ発注していました。このため、商品化検討の社内ミーティングでは手作りのダミーパッケージで議論しなければならず、なかなか商品の最終イメージを共有することができませんでした。

これが、カラーラベルのオンデマンド印刷が可能になったことで、開発段階からほぼ最終版に近いデザインのパッケージラベルで議論できるようになりました。また議論の結果、デザインに修正が入っても、翌日には新しいデザインのパッケージラベルが提示できるようになり、ミーティングに参加するメンバー間のイメージを共有化できたのに加えて、商品開発スピードがとて上がりました(写真1)。

—— 新商品はどのくらいのサイクルで開発されているのですか。

西田 毎週5〜10品のメニューがリストアップされ、試作を行います。そこから商品化決定まで1商品につき約2週間かかりますが、それぞれが並列で動いているので、ほぼ3日に1品のサイクルで新商品を出していることになります。しかも養殖以外の水産物には「旬」がありま

始め、認知度を高めた上で、旬になったらすぐに製造・販売しなければなりません。よって開発着手から商品化までにかかる時間は短いほうがいいです(写真1)。ちなみに、あまり社内にPRせずにオンデマンド印刷を導入したのですが、従業員がスムーズに使いこなしているの

期限表示を分かりやすく消費者へのサービスも向上

—— デザインや項目の変更が容易になったことで、どのような効果がありましたか。

西田 例えば、表示ラベルの中に「産地表示」がありますが、水産品の宿命で「今年は日本海側のアサリが取れないので、急ぎよ、輸入アサリに切り替えなければならぬ」「養殖であつても出来不出来によって、変更しなければならぬ」ということがしばしばあります。そういった場合に、ラベル内の表示をすぐに変更できるようになった点が挙げられます(写真2)。

—— 同時に「賞味・消費期限の表示をラベルに一括表示できるようになった」ということも伺っています。

西田 ラベルの中に賞味・消費期限を書き込めるようになったので、「欄外上部に記載」と回りくどく表現したり、後からその部分だけを刻印したりする必要がなくなりました。特に欄外表記は消費者にとって探るのが非常に面倒なものです。これを解消できたのは、ある意味で消費者へのサービス向上につながっていると思います。

Column

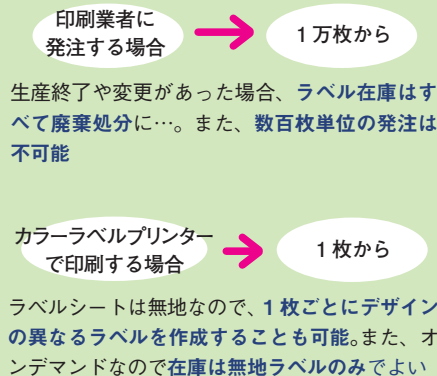
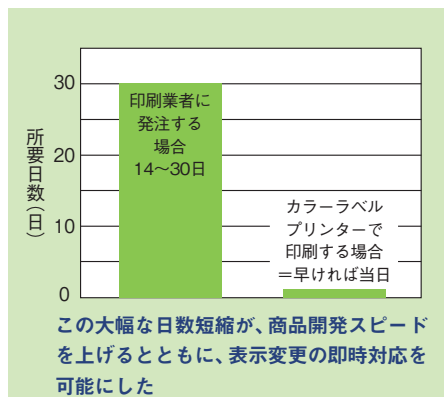
安全・安心な
ものを食卓へ

森松水産冷凍株式会社
専務取締役
森松 優子氏

当社のモットーは「わが子にも食べさせられる安全・安心なものを、日本と世界の食卓に届ける」です。これを実現するために、オリジナルハイテク機械の開発、受注から生産、出荷までをコンピューターで一元管理するシステムの構築などを行っています。

また、さらなる顧客満足の向上を目指して、03年に品質マネジメントシステムであるISO 9001認証を取得しました。海外に向けては00年に対米輸出を開始したのを手始めに、現在では欧州、アジアにも輸出しています。この輸出に関連して、EUHACCPやBRCの認定も取得しました。今後は輸出に力を入れていく考えで、ドバイのシーフードショーやロサンゼルス、ボストンで開催される食関連の展示会に積極的に出展して、PRしていきたいと考えています。

【図2】ラベル印刷ロット比較

【図1】各種ラベル作成に必要な時間
(デザイン化決定後)パッケージラベル・表示ラベルの
在庫削減に絶大な効果

——生産量とラベル印刷の点では、どのようなオンデマンド効果がありますか。

西田 当社の場合には、パッケージラベルが必要な一般消費者向け商品に関しては、ロット生産できるほどの出荷数量がないので、状況としては受注生産に近い上、お客さまのニーズに応えるため、ラインアップを数多くそろえなければなりません。よって、それぞれの種類のパッケージラベルや表示ラベルを必要に応じて用意するためには、オンデマンドが効果的です。これは、中元・歳暮などの贈答用商品向けパッケージラベルのように、ごく限られた期間だけ必要なものについても同様のことがいえます。

また、新商品に関しては、販売スタート時期からある程度販売ラインに乗って売れるようになるまでカラーラベルプリンターを利用すれば、変動に対応して印刷できるので非常に効率的です。専用パッケージラベルは、その商品に定番化が決まった時点で本格的に作ればい

いと思っています。

——ラベルの在庫削減の点でのオンデマンド効果はいかがですか。

西田 地魚の種類ごとに商品名とコードが付いているので、入れ替わりも含め、当社の延べ商品数は数千種類を余裕で超えていると思います。また、一般消費者向け通販商品もバリエーションを含めると60～70種類になるでしょう。

これまでは、これらのラベルをロット印刷していたので、例えば売れ行きのない商品の場合、パッケージラベルすべてを廃棄することもありました【図2】。また冷凍品やレトルト品は真空パックにするのですが、これらのパッケージラベルを全部印刷物にすると、ほかの用途で使えないため、パッケージラベルそのものが在庫になっていました。これがオンデマンドになったことで、これらの在庫を持つ必要がなくなりました。

——具体的にどの程度在庫を削減できたのですか。

西田 これまでは、工場のかいにある倉庫の一角をラベルの在庫置き場にしていました。これが、無地のラベルロールだけあればいいので、一つのデスクの引き出しに収められるようになりました。これは本当に劇的な変化です【写真3】。

——今後のカラーラベルプリンターの活用方法について何かお考えですか。

西田 例えば、スーパーマーケット（SM）に卸している「切り身」に使用するラベルを当社で必要枚数印刷して送るというサービスもできるようになってくると思います。また、SMや食品メーカー

などからOEM商品を作ってほしいという要望が急に入ってきた際にも、当社で先方専用のラベルをデザインして、それを必要枚数張り付けたものを必要ロットすぐに出荷するということも可能でしょう。これは、当社の今後の国内販売の展開の中で非常に大きく視野に入れている部分でもあるのです。

カラーラベルプリンター情報

今回、森松水産冷凍が導入したのはキヤノンのラベルプリンター「LX 740」だ。同機は「今すぐ数枚だけ欲しい」「1枚ずつ情報を差し替えたい」「自由にデザインしたい」というユーザーのさまざまな要望にフレキシブルに対応できている西田氏が「導入検討段階から、出力スピードやインク特性などの内容を見た結果、自分たちが理想としているパッケージラベル制作・印刷を可能にしてくれる機器だと思った」とのことだ。シリーズにはLX 740のほか、上位機に当たるLX 760、LX 760RFがある。



▲写真2 データ入力画面で内容を変更後、カラーラベルプリンターで出力する

▲写真3 本社工場近くの倉庫内にあった印刷ラベル保管スペース（上）。これが一つのデスクの引き出しに収まるようになった（下）

